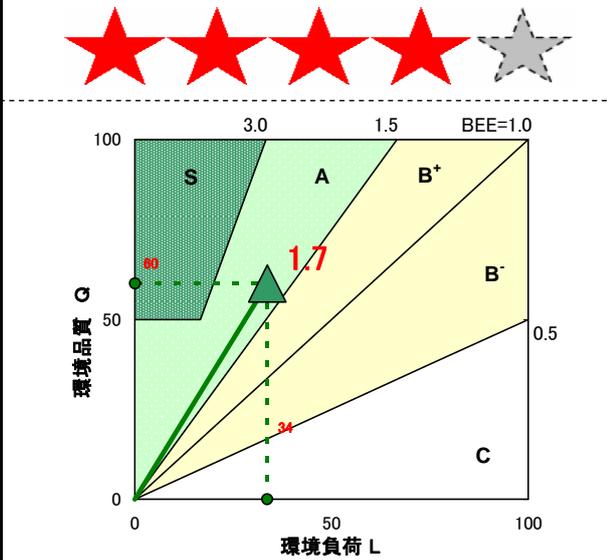


# CASBEE<sup>®</sup> 熊本 《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	益城町保健福祉センター	階数	地上2階		
建設地	熊本県上益城郡益城町	構造	RC造		
用途地域	第1種中高層、防火指定なし	平均居住人員	50人		
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	4,000時間/年		
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2013年3月 予定	評価の実施日	2012/4/		
敷地面積	7,978 m <sup>2</sup>	作成者			
延床面積	3,004 m <sup>2</sup>	確認日	2012/4/		
		確認者			

## 1 CASBEE評価結果

### ■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



BEE = 1.7

■ BEE(環境効率) =  $\frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$

### ■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	-
B <sup>+</sup>	★★★	良い	1.0以上1.5未満	-
B <sup>-</sup>	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	-
C	★	劣る	0.5未満	-

### ■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能(ランク表示)



排出率

**74%**

### ■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
3%以下	☆☆☆☆☆
3%超6%以下	☆☆☆☆
6%超8%以下	☆☆☆
8%超100%以下	☆☆
100%超	☆

## 2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価		評価点
		<b>95</b>
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	評価点	<b>101.2</b>
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	評価点	<b>83.7</b>
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	評価点	<b>102.5</b>
【重点事項4】 循環型社会の実現	評価点	<b>84.7</b>

### ■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

# CASBEE<sup>®</sup>熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築（簡易版）2010年版 使用評価ソフト：CASBEE-NCb\_2010(v.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	益城町保健福祉センター	階数	地上2階
建設地	熊本県上益城郡益城町	構造	RC造
用途地域	第1種中高層、防火指定なし	平均居住人員	50人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	4,000時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年3月 予定	評価の実施日	2012/4/
敷地面積	7,978 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	2,380 m <sup>2</sup>	確認日	2012/4/
延床面積	3,004 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.7** ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 79%

③上記+②以外のオンサイト手法 74%

④上記+オフサイト手法 74%

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.3**

**Q1 室内環境** Q1のスコア= 3.2

**Q2 サービス性能** Q2のスコア= 3.4

**Q3 室外環境(敷地内)** Q3のスコア= 3.5

**LR のスコア = 3.6**

**LR1 エネルギー** LR1のスコア= 3.9

**LR2 資源・マテリアル** LR2のスコア= 3.5

**LR3 敷地外環境** LR3のスコア= 3.4

### 3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価 評価点 = 95

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 評価点 = 101

重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = 84

重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 103

重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 85

重点事項の評価(レーダーチャート)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい

# CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

## 4 設計上の配慮事項

### 総合

- ・周辺は住宅地であり、建物の高さを低く南側に配置して、特に北側住宅の日照・眺望等に与える影響を配慮した。尚既存樹木も残している。
- ・建物は高断熱化を図るとともに、設備機器も高効率の機器を選定する等、省エネに配慮した。

### Q1 室内環境

- ・外壁面に窓を広く取り、昼光利用に配慮している。
- ・開口廻りに庇、ブラインドを設け昼間の直射光によるまぶしさの対策を行う。
- ・建物内は全て禁煙としている。

### Q2 サービス性能

- ・内外装仕上げ等で、建材選択において維持管理に配慮する。
- ・階高を高くとり、空間のゆとりを考慮する。

### Q3 室外環境（敷地内）

- ・空地、緑地を設け周辺のまちなみや景観に十分配慮する。

### LR1 エネルギー

- ・太陽光発電を利用したシステムを計画している。
- ・設備システム高効率機器を採用している。（仕様基準のポイント値が高い）

### LR2 資源・マテリアル

- ・リサイクル材を積極的に採用する。
- ・県産品の木材を使用する。

### LR3 敷地外環境

- ・駐車場、駐輪場を広く確保し利用者の利便性を配慮する。
- ・ゴミの分別を積極的に行い、減量化対策を行う。

### その他

注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。

**CASBEE-新築(簡易版)2010年版**  
**益城町保健福祉センター**

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年版  
 ■評価ソフト: CASBEE-NCb\_2010(v.1.3)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>								<b>3.3</b>
<b>Q1 室内環境</b>								<b>3.2</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.0</b>	0.15	-	-			<b>3.0</b>
1.1 騒音		<b>3.0</b>	0.40	-	-			
1 室内騒音レベル		<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	-			
2 設備騒音対策		-	-	-	-			
1.2 遮音		<b>3.0</b>	0.40	-	-			
1 開口部遮音性能		<b>3.0</b>	0.60	<b>3.0</b>	-			
2 界壁遮音性能		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		<b>3.0</b>	-	<b>3.0</b>	-			
1.3 吸音		<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-			
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.6</b>	0.35	-	-			<b>2.6</b>
2.1 室温制御		<b>3.0</b>	0.50	-	-			
1 室温		<b>3.0</b>	0.38	<b>3.0</b>	-			
2 負荷変動・過渡制御性		-	-	-	-			
3 外皮性能		<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	-			
4 ゾーン別制御性		<b>3.0</b>	0.38	-	-			
5 温度・湿度制御		-	-	-	-			
6 種別制御		-	-	-	-			
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-			
8 監視システム		-	-	-	-			
2.2 湿度制御		<b>1.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-			
2.3 空調方式		<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-			
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.6</b>	0.25	-	-			<b>3.6</b>
3.1 昼光利用		<b>4.2</b>	0.30	-	-			
1 昼光率	昼効率 4.8%	<b>5.0</b>	0.60	<b>3.0</b>	-			
2 方位別開口		-	-	<b>3.0</b>	-			
3 昼光利用設備		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	-			
3.2 グレア対策		<b>4.0</b>	0.30	-	-			
1 照明器具のグレア		-	-	-	-			
2 昼光制御	ブラインドに、庇を組合せグレアを制御	<b>4.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	-			
3 眩り込み対策		-	-	-	-			
3.3 照度		<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	-			
3.4 照明制御		<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	-			
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.8</b>	0.25	-	-			<b>3.8</b>
4.1 発生源対策		<b>4.0</b>	0.50	-	-			
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆建材の70%採用	<b>4.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	-			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-			
4 レジオネラ対策		-	-	-	-			
4.2 換気		<b>3.3</b>	0.30	-	-			
1 換気量	建築基準法における換気量の1.2倍	<b>4.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-			
2 自然換気性能		<b>3.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-			
3 取り入れ外気への配慮		<b>3.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-			
4 給気計画		-	-	-	-			
4.3 運用管理		<b>4.0</b>	0.20	-	-			
1 CO <sub>2</sub> の監視		<b>3.0</b>	0.50	-	-			
2 喫煙の制御	建物内禁煙	<b>5.0</b>	0.50	-	-			
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.30	-	-			<b>3.4</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.5</b>	0.40	-	-			<b>3.5</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>3.0</b>	0.40	-	-			
1 広さ・収納性		<b>3.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-			
2 高度情報通信設備対応		<b>3.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-			
3 バリアフリー計画	建築物移動等円滑化基準を満たしている。	<b>3.0</b>	0.33	-	-			
1.2 心理性・快適性		<b>3.6</b>	0.30	-	-			
1 広さ感・景観	1階多目的室においては、天井高さ5.5mである。	<b>4.0</b>	0.33	<b>3.0</b>	-			
2 リフレッシュスペース	2階屋外テラスを完備している。	<b>4.0</b>	0.33	-	-			
3 内装計画		<b>3.0</b>	0.33	-	-			
1.3 維持管理		<b>4.0</b>	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計	内部は杉板及びクロス貼り、外部は吹付けタイルとしている。	<b>4.0</b>	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保	掃除用の流し等の設置	<b>4.0</b>	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.3</b>	0.31	-	-			<b>3.3</b>
2.1 耐震・免震		<b>3.8</b>	0.48	-	-			
1 耐震性	建築基準法の規定値より20%増	<b>4.0</b>	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		<b>3.0</b>	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>2.8</b>	0.33	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		<b>3.0</b>	0.23	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		<b>2.0</b>	0.23	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	内装材の耐用年数は、およそ20年である。	<b>4.0</b>	0.09	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.08	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.15	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.23	-	-			

2.3 適切な更新						
2.4 信頼性			3.2	0.19	-	-
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-
2	給排水・衛生設備	節水型器具及び系統分けを行っている。	4.0	0.20	-	-
3	電気設備		3.0	0.20	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性			3.5	0.29	-	-
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31	-	-
1	階高のゆとり	階高は4.1mである。	5.0	0.60	3.0	-
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率 0.12である。	4.0	0.40	3.0	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	-
3.3 設備の更新性			3.1	0.38	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-
2	給排水管の更新性	構造部材を痛めることなく改修できる。	4.0	0.17	-	-
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-
2 まちなみ・景観への配慮		空地、緑地を設け周辺のまちなみや景観に十分配慮している。	4.0	0.40	-	-
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	空間、施設機能、屋外テラス、防犯性の配慮	4.0	0.50	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-
1 建物の熱負荷抑制			3.0	0.30	-	-
2 自然エネルギー利用			4.5	0.20	-	-
2.1	自然エネルギーの直接利用	ハイサイドライトを採用し、採光や通風を考えている。	4.0	0.50	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用	太陽光発電を利用したシステムを採用している。	5.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化		仕様基準(ポイント値)の空調・照明・給湯の評価が高い	5.0	0.30	-	-
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)		ERR=48.5%	4.0	-	-	-
集合住宅の評価			3.0	-	-	-
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-
1.1	節水	節水型便器を使用	4.0	0.40	-	-
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.6	0.63	-	-
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	再生骨材の路盤材利用・ビニール床材・防水パン	5.0	0.20	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材	木材は県産品・国産品を使用	5.0	0.05	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上げの分別が可能	4.0	0.24	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.22	-	-
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-
3.2	フロン・ハロンの回避		3.3	0.68	-	-
1	消火剤	粉末(ABC)消火器を使用	4.0	0.33	-	-
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33	-	-
3	冷媒		3.0	0.33	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-
1 地球温暖化への配慮		省エネ設備の導入	4.0	0.33	-	-
2 地域環境への配慮			3.3	0.33	-	-
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-
2.3	地域インフラへの負荷抑制		4.3	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-
3	交通負荷抑制	駐輪場・駐車場が十分完備されている。	5.0	0.33	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制	ゴミの分別を行い、減量化対策を行う。	5.0	0.33	-	-
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-
1	騒音		3.0	1.00	-	-
2	振動		-	-	-	-
3	悪臭		-	-	-	-
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-

**熊本県重点評価結果スコアシート** 実施設計段階  
**建物名称** **益城町保健福祉センター**

■評価ソフト: CASBEE-Ncb\_2010(v1.3)\_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点	94.7	
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
<b>① 温室効果ガス排出量削減の推進</b>				101.2	0.40	40.48
Q1-2.1.3	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.2	昼光制御	4.0	0.05			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	3.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	4.5	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.10			
<b>② 安全安心で暮らしやすい社会の実現</b>				83.7	0.20	16.74
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	4.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
<b>③ 県の地域資源の有効活用と保全</b>				102.5	0.20	20.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	4.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	5.0	0.30			
<b>④ 循環型社会の実現</b>				84.7	0.20	16.94
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	2.8	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.5	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数)の総和  
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①~④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数)の総和 × (5/4) × 20  
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数